

令和7年度
所管事務調査報告書

令和8年1月
竹富町議会総務財政委員会

【調査目的】

黒島および新城島における公共施設の整備状況、教育環境の維持管理、および産業振興（畜産・6次産業化）の現状を把握し、今後の予算編成および行政運営の参考とする。

【調査実施日】

令和8年1月13日(火)

【実施場所】

黒島・新城島(上地・下地)

【総務財政委員会】

宮良委員長、東金嶺委員、三盛委員、上勢頭委員、大浜委員、大久議長

随行：喜久本(事務局)、大嵩課長・荷川取主任(まちづくり課)、横目課長(農林水産課)、新城係長(教育委員会総務課)

【調査結果および提言】

① 黒島複合型福祉施設整備

計画と現状：令和6年度に基本設計が完了し、令和7年度に実施設計、令和8年度着工のスケジュールを確認。旧保育所の老朽化に伴い、防災機能や地域交流機能（青年会・婦人会・老人会）を併設する。

提言：バリアフリーの徹底: 2階は高齢者の利用も想定されるため、手すりの設置や完全バリアフリー化を要望する。

管理面の工夫：他島の事例（竹富島等）から、駐車場の防草対策（小石の選定等）など、メンテナンス性を考慮した設計を反映させること。



② 黒島小中学校

現状: 特別教室および調理室の老朽化が著しい。また、火災報知器の不作動という安全上の重大な欠陥が確認された。

提言: 安全確保: 火災報知器の不具合は生命に関わるため、最優先で修繕すること。

保守体制: 応急処置に留まっている危険箇所について、定期的な業者による点検・メンテナンス体制を構築し、計画的な大規模改修を検討されたい。



③ 牛糞の堆肥化

現状: 牛糞の堆肥化（約4ヶ月サイクル）により、化学肥料の削減と良質な牧草育成（食いつきの向上）に成果が出ている。

提言: 資源循環: 窒素・リンの海洋流出防止の観点からも島内循環モデルは極めて重要である。分解を促進するための炭素源・糖分の補給など、実証実験のデータに基づいた効率的な仕組み作りを支援すること。



④ パレット搬出・活用

現状: 黒島港に依然として8,000枚以上のパレットが残置されている。

提言: アップサイクルの推進: 単なる搬出ではなく、破砕機導入による利活用を検討すること。

広域連携: 石垣港への滞留を防ぐため、最終的な出口戦略（企業との連携）を明確にした搬出スキームを構築すること。

⑤ 道路整備計画

現状: 東筋集落を中心に、2号線・12号線等の整備計画が進行中。

優先順位の精査: 主要路線の舗装は地域の安全性・利便性の向上のために必要である。路線ごとの利用状況や安全性、地域のニーズ等を踏まえ、維持管理コストと必要性を丁寧に検証したうえで、財源を効果的に活用できるよう、優先順位を明確にした整備と予算配分を行うことが望む。



⑥ 黒島の塩作り

現状: 雇用創出を目指し、高濃度海水からの製塩事業に取り組んでいる。

提言: 体験型観光への転換: 単品販売は価格競争が厳しいため、「塩作り×黒島牛BBQ」といった体験型コンテンツとして付加価値を高めること。他島の特産品（竹富島産車海老等）とのコラボレーションも検討の余地がある。



⑦ 新城島（上地島）の防災・インフラ

- 現状: 非常用電源の不足、ヘリポート照明の故障、水道の赤水問題が確認された。
- 提言: 緊急対応: 防災拠点としての機能を維持するため、発電機の配備およびヘリポート照明の修理、赤水対策を早急を実施すること。



※新城島（下地島）

下地島における調査については、冬季の強風の影響により船着場へ砂が堆積していたことから、上陸は困難と判断した。このため、本調査は船上からの現況確認により実施した。

3. 総括

黒島・新城島ともに、既存施設の老朽化対策と、島内資源（牛糞、パレット、海水）を活かした循環型社会・産業の構築が鍵となる。特に子供たちの安全（学校・保育所）と防災インフラ（新城島）については、次年度予算において優先的に取り組むべきである。